

旧制秋田県立高等学校生徒課「日誌」(一九四八年度)

吉川卓治

解題

ここに紹介するのは、旧制秋田県立高等学校の生徒課において作成された「日誌」（一九四八年度）である。旧制の秋田県立高等学校とは、戦後改革期に設置された七校の特設高等学校（以下、特設高校と記す）のうちの一つである。特設高校は、連合国軍最高司令官（GHQ/SCAP）の主導で組織された医学教育審議会や歯科教育審議会の審査によりB級判定を受けて廃止の決まった一部の医学専門学校と歯科医学専門学校で設置された学校である。特設高校は、その学校の生徒や旧制度下の他の学校の出身者を受け入れて、旧制ないし新制の大学へと送り出す一時的な「中継ぎ」の役割を担った¹。長くても一九四七年から一九五一年までの四年ほどしか存在しなかったため、現在ではほとんど知られていないが、戦後改革期における学制改革によって行き場を失いかねなかった生徒たちを入学させて旧制・新制の大学に送り出すという重要な役割を果たした。

特設高校は、高等学校令（一九四四年制定、一九一八年全文改正）を根拠として設置されたいわゆる旧制高校の一種である。高等学校令は、一九四七年三月に公布された学校教育法によって他の旧法令とともに廃止となったが、特設高校は学校教育法第九十八条に規定された経過措置により、「従前の規定による学校」として設置が認められた。したがって、特設高校の内容は高等学校令に基づくものだった。とはいえ、戦前に設置されていた旧制高校とは異なる点もあった。戦前来の高等学校（高等科）は、高等学校令の定めにより文科と理科から構成されていたのに対し、特設高校はどれも理科だけの高校として設置されたのである。これは、一九四七年五月の文部省令第十号が文科と理科のどちらか一方を欠くことを認めたことに基づいている。

秋田県立高等学校は、このような特設高校の一つだった。特設高校のなかではもつとも遅い一九四七年九月二十二日に設置が公示され、一九五〇年三月三十一日をもって廃止された。設置の際、その基礎となったのは、秋田県立女子医学専門学校だった。秋田県立女子医専は、戦時下で多くの男性医師が兵士や軍医として出征したために払底した医師の養成を目的に女性だけを入学者とする学校として設置された²⁾。その県立女子医専がB級と判定され廃止が決まったことにもない秋田県立高等学校が設置されたのである。

しかし、秋田県立高等学校は、この女子医専の在校生の受け入れを目的としたわけではなかった。秋田県立高等学校学則によれば、入学資格は「中学校又は高等女学校第四学年を修了した者及び卒業したもの」「高等学校尋常科を修了したもの」「高等学校高等科入学資格試験に合格したもの」「専門学〔校欠カ〕入学者検定により試験検定に合格したもの」「文部大臣において高等学校高等科の入学に關し指定したもの」「文部大臣において一般の専門学〔校欠カ〕の入学に關し中学校卒業者と同等以上の学力ありと指定したもの」に与えられていた。実際、一九四八年六月二十日現在の生徒は、一年生が男子三四名、女子六名、二年生が男子三五名、女子六名と、多くが男子だった³⁾。

*

この秋田県立高等学校の生徒課「日誌」は秋田県立図書館所蔵の「秋田県立（旧制）高等学校関係資料」という資料群に含まれている。同図書館のホームページで検索してみると、「内容細目」からこの資料群が次の三二の資料から構成されていることがわかる（一部表記を変更した）。

1 学務関係簿冊

2 補助簿（備品）（図書）（台帳）

- 3 会計 昭和二十三、二十四年度
- 4 人事関係簿冊
- 5 俸給給料請求書
- 6 講師手当支給台帳 昭和二十四年度
- 7 「生徒課」日誌 昭和二十三年度
- 8 生徒課日誌 昭和二十四年度
- 9 自治会生徒課一般関係綴 昭和二十三年度
- 10 自治会及生徒課一般関係綴 昭和二十四年度
- 11 厚生関係綴 昭和二十三年度
- 12 厚生関係綴 昭和二十四年度
- 13 訓育日誌 昭和二十三、四年度
- 14 宿所調査票 第三学年
- 15 奨学生に関する書類綴 昭和二十三年度
- 16 奨学生関係書類綴 昭和二十四年度
- 17 奨学金現金出納簿 昭和二十三、四年度
- 18 育英会関係記録 昭和二十三、二十四年度
- 19 奨学生原簿 昭和二十三、四年度
- 20 奨学生異動簿 昭和二十三、四年度

- 21 原簿送達 送金通知（受払報告）綴 昭和二十三、四年度
- 22 奨学金受払報告書控
- 23 〔奨学金〕 学業成績書
- 24 その他奨学生に関する書類一式
- 25 開校一周年記念祝典記録（付…祝辞二通、告辞一通）
- 26 〔同窓会〕 記録
- 27 〔秋田県立高等学校父兄会〕 会計簿 昭和二十三年度
- 28 〔秋田県立高等学校父兄会〕 会計簿 昭和二十四年度
- 29 秋田県立（旧制）高等学校同窓会会員名簿
- 30 秋田旧制高等学校同窓会会則（案）
- 31 秋田県立（旧制）高等学校同窓会名簿 平成二年一月編
- 32 秋田大学学芸学部化学研究室に保管中のもの

特設高校に関してこれほどまとまった資料群は他にはなく、いずれも貴重な資料だと評価できる。「内容細目」をみると、この資料群が学務関係、人事・俸給関係、生徒指導関係、奨学金関係、同窓会関係の資料からなっていることがわかる。ただし、現段階では、個人情報保護の観点から閲覧自体が禁止されている簿冊も多く、コピーや撮影はいずれも認められていない。

「1 学務関係簿冊」には基本資料となる「秋田県立高等学校一覧（昭和二十三年六月二十日現在）原稿」が含まれている。そのなかには、秋田県立高等学校の沿革や学則が掲載されているが、旧制高等学校に關係する資料を

広く採録した旧制高等学校資料保存会編『旧制高等学校全書』第二巻・第五巻（旧制高等学校資料保存会刊行部、一九八五年）にはこれらと同じ内容が翻刻されている。

この資料群をもとと保管していたのは、秋田県立高等学校で化学担当の助教として勤務し、生徒課長を兼任していた小野田亮一だった。「内容細目」の最後に「保管責任者 秋田県立（旧制）高等学校校務整理委員 小野田亮一」とある。小野田は、秋田県立高等学校の廃校後、秋田大学文学部助教に異動した。

*

生徒課「日誌」には一九四八年度と一九四九年度の二冊があるが、ここでは一九四八年度のものを翻刻・紹介する。「日誌」はB5版の罫紙にペンで縦書きされている。筆跡は一貫しており、執筆者は、小野田亮一だったとみられる。表紙の裏に校長の野口洪基の検印があるから、校長が内容を確認していたことがわかる。

この「日誌」から特設高校の具体的な教育活動の実態や雰囲気の一部をうかがうことができる。たとえば、一九四八年度初めから、生徒たちが運動部の結成を学校当局に申し出たり、割引料金で映画鑑賞ができるように交渉したりするなど、盛んに活動している様子がわかる。制服や制帽についての生徒への希望調査、工場見学会、遠足、ハイキング、教員と生徒との懇談会といった課外活動の状況もうかがえる。その一方で、生徒の教官室への無断侵入や運動用具の無断使用に対する指導、成績不良者への対応に苦慮する教員の姿をみることもできる。生徒の成績を決定するため年度末の三月に開かれた会議では「欠点」をとった生徒を「救済」するために教員たちが取り決めたルールや手続きが記されている。

一九四八年度中のメイスイイベントは八月七日から九日までの二泊三日で実施された十和田旅行だろう。生徒たちが十和田湖の遊覧船や溪流での散策を楽しんだり、一二年生対抗の「ジェスチャーあそび」に深夜まで興じたりす

る一方、明け方には二年生から一年生への、旧制高校でおなじみの「ストーム」が行なわれたことが記されている。数少ない女子生徒もこの旅行に参加しており、入浴は別の旅館を借りるなど引率教員たちが神経を使っていたこともわかる。

旧制高校といえば、将来を約束された少数の男子エリートの学校で、弊衣破帽や「バンカラ」のイメージが強いが、この「日誌」からは、生徒や教員たちがそうした旧制高校としての「伝統」を一種の憧れとして指向しつつも、同時に戦後の民主化や女子生徒が入学したことによって生じた新しい状況、数年後の廃止を前提とした対応に取り組んでいた様子が具体的に浮かび上がってくる。この「日誌」は、敗戦直後の一時期に特設高校で繰り広げられた教育活動の実態に迫ることのできる貴重な資料だといえることができるだろう。

(付記) 本稿は、JSPS 補助金(基盤研究(C)、課題番号19K02395)による成果の一部である。

注

- (1) 吉川卓治「戦後改革期特設高等学校の研究」『日本教育史研究』第三八号、二〇一九年八月、参照。
- (2) 吉川卓治「総力戦体制下における高等教育機関の設置と地域—公立医学専門学校に注目して」『大学史研究』第二六号、二〇一七年十二月、参照。
- (3) 「秋田県立高等学校一覽(昭和二十三年六月二十日現在)」秋田県立図書館蔵。
- (4) 西山伸は「吉川論文論評」(『日本教育史研究』第三八号、二〇一九年八月)においてこの課題を具体的に指摘している。

(よしかわ・たくじ 名古屋大学教育発達科学研究科)

凡例

- ・生徒名は伏せ、□をあてた。
- ・判読不能の箇所には■を入れた。
- ・「」は筆者の挿入である。
- ・旧字は新字にした。
- ・「全」は「同」に置き換えた。

〔表紙〕

「昭和二十三年度

日誌

秋田県立高等学校生徒課」

〔表紙裏「昭和廿四年参月拾六日検閲野口」〕

四月九日（金）

入学式

四月十一日（月）

始業式

四月十二日(火)

講義開始

四月十四日(木)

1. (二年) 育英会
奨学課より成績請求あり。(継続、本中)

2. (一年) 県庁より奨学生継続につき継続願提出の請求あり。(横手中、昭二三、中、ほ、一七二)

3. (一年) 県庁より奨学生決定通知あり。在学証明書提出の請求あり。(昭23高第18号)(能中)

四月十六日(金)

一年に在学保証書を渡し説明。訂正し、月末迄学級担任に提出する様に命ずる。

四月十七日(土) 一限のみ授業

二限より一年歓迎会、午后野球。

1. 二年 成績証明書郵送(二年学年末のもの)(本中)

2. 一年 在学証明書郵送(控保存しあり)(能中)

3. 一年 願書及び推せん書郵送(新希望、推せん
順位 1-4)(能女)

四月二十日(火) くもり、はれ

1. 二年 願書及び推せん書郵送(新希望、順位2-4 出席105欠0)(専検)

2. 二年 同右(新希望、順位4-4、出席100欠5)(横手)

3. 一年 継続願及び推せん書同右(継続、順位1-3)(横中)

四月二十三日（金）曇後雨

1. 二年生の中学校の成績見当らざる為（在県庁か？）□□の奨学資金希望についての前校の成績は通知表を持参する様話する。願書のみ持参する。

2. 外務委員、□□、□□、映画鑑賞会結成、並に学校指定喫茶店の設置について校長に話あり。校長内諾したる旨の話あり。映画については明土曜の午前中に交渉に行く予定となつてゐる由。

3. 二、三日前より、生徒、庭球部（仮名）の如き団体を作り、土曜に北高校コートにて練習、（コート使用については既に了解し承諾を与てゐる）。野球も同様にしたい旨、校長に相談。校長は差支なし。但し、名簿及び責任者名を届出でよと申し添へたる旨の掲示（二十日掲示）あり。

4. 生徒課日誌作製し本日記入す。

四月二十四日（土）曇、風強し

1. 育英会より四月二十日附にて、□□□□、□□□□□の学年末成績照会来る。前者は既に四月二十日差し出し、後者分本日出す。控保存しあり。

2. 映画観覧についての便宜を外務委員（□□、□□）交渉の末、本日左の如く決定した。

A. 館はセントラル及び東宝で、尚今後他観にも交渉の筈。

B. セントラルにての観覧方法は観覧券を委員にて作製、捺印して、それをもつていつて観覧し、後で券数だけの代金を支払ふものとする。代金10円、希望の週は何時にてもよく、来週より実施する。

C. 東宝での観覧方法は、希望者の代金をまとめて委員が持参すると、東宝にて観覧券を発行する。代金は10円。今週より実施する。尚東宝では映画を指定するのを主体とするが、こちらの希望もいれる。

D. 校長より職員、生徒数の証明書を右二館に提出した。

3. 校章、制服ともに決定してないので、右の如き場合に必要なる為、至急(月或は火曜迄) 全員の身分証明書を作つてもらひたいとの希望あり。事務に話をして作つてもらふことに決定。

4. 喫茶店については目下考慮中なる旨。

5. 二年□□□□、願書及び推せん書郵送(新希望、推せん
順位 3—4 出席98病欠7)(都水中)

6. 東北大学新聞社より、購読申込案内、見本と共に来る。

来週生徒に掲示して申込希望をとる予定。代金半年分。

東京大学新聞も同様にする予定なり。差しあたり半年分を申し込むことにする。

四月二十七日(火) 曇時々小雨

1. □□□□の奨学資金継続願差し出し、在學校(能中)より差し出したるも返送されたるによるとのこと。願

書中の成績は入試に添附の書類を用ひた。順位2—4出²³⁶欠0

2. 二年生一名願書をもらひにくる。

3. 東北学生新聞、東京大学新聞の募集を掲示す。

条件、半ヶ年分、39円及び50円納入の上、土曜迄委員を通じて申込むこと。

四月二十八日(水) 晴、風強し

1. 映画入場券(セントラル)印刷(1枚に18枚)した紙42枚限り。その都度委員に渡すことに決定。

2. 大学新聞の申込みありたるも代金をつけてのことにして明后日とする。

四月二十九日(木) 晴

補欠入学考査行ふ。

四月三十日(金)晴

1. セントラル券三枚渡す。

2. 新聞代うけとる。東京大学新聞

東北学生〃〃

追加申込みは来週金迄とする。

3. 出欠の原案提出す。

4. 入学者通知出す。午后発表。

五月一日(土)晴

1. 欠席、欠課、忌引について掲示出す。

2. 仏語講義始まる。

3. 新任書記来任す。

五月三日(月)小雨後風雨

憲法発布記念式行はる。つづいて補欠募集生徒17名(中2名欠)の入学式行はれる。教科書、ノート等の話あり。

五月四日(火)曇、時々晴、風強し。

1. 二年□□□□の奨学生採用通知書到着。昭和23高第九九四号。

1000.-

4月より校長をへる。

五月五日(水)晴

1. セントラル券一枚渡す。
2. 奨学資金書類二通もらひにくる。
3. 大学新聞追加申込あり。計東北19東京15
4. 明日、遠足方向決定、掲示す。
5. 身分証明書、印刷たのむ。(校長先生)

五月六日(木)晴

全校遠足行はれる。

1. 目的地：雄物川放水路附近及び海岸。2. 出発：九時。
3. 解散一時十分。4. 出発后、国道迄隊伍をくみ、国道に出でから自由行進。
5. 到着十時半。解散別、一年□□、□□、遅れ、二年委員探しに行く(二時間おくれ)

五月七日(金)晴

1. 東京大学新聞申込。申込数11。学校1、生徒10(二年7、一年3)料金半年分550.-(各50.-)振替にて払込、手

数料2.-

2. 東北学生 " " 申込数19。学校1、小野田1。

生徒17(二年6、一年11)代金半年分746.-(各29.-)

振替口座なき為、小為替にて払込む。

手数料 6.00、書留料金 6.20-
(切手代金)

3. 学生自治会第四限目に開催。

(東北大学新聞社、東京大学新聞社宛の送金控えが貼付)

全学自治会決定事項 (委員報告に来る)

1. ロウ球排球用ボール各一ヶを一人 40.- 出して買ひ入れる。併し購入費に尚 20.- 不足の為、これは部員より負担してもらふ。

尚校友会結成の場合には右金額は校友会費として考へる。

2. 水泳部、誕生。

3. 各部のメモバー決定 (庭籠、野、排、卓、水、陸、
文学、美術、音楽、科学 4、7)

4. 自治会則、校友会則を目下委員にて立案中にて来週中に決定の筈。

五月十一日 (火) くもり

第四限より第五限半ば迄自治会々々則審議の為自治会開催さる。

五月十三日 (木) 晴

第六限校友会々則審議の為、二年委員と校長、職員三名、校長室にて会合す。

五月十四日 (金) 晴

1. 生徒心得抄 (秋田県立高等学校学則抄) を印刷 100 部。生徒に配布す。
2. 校友会々則審議の為午后生徒大会行はる。

五月十五日（土）晴

1. 外務委員、昨日、東宝及び松竹に映画交渉に赴きたる結果の報告あり。

旭館：型式は東宝と同じで金額は15円。

松竹：団体観覧の場合に限り（引率しての団体）15円。

2. □□□奨学資金願書推せん書等送附。推せん順位1—5出席105欠0。人物■●●校長書く。

五月十八日（火）はれ

1. 大日本奨学会より奨学生身体検査方法改正について通牒来る。

2. 同会より二年□□□□ 昭23高第994号、月額千円4月分より校長をへて本人に交付する。

二年□□□□ □□□□ 1007号 同右、23・5・13日附なり。

右奨学生決定通知来る。□□は重復（5月4日着）なるも通知書交付する。

五月二十日（木）はれ

1. 第四限、二年生のみ写真撮影す。

2. 第五、六限、校友会幹事選挙あり。

3. 電蓄、アルコールの交渉。

五月二十一日（金）晴

1. 奨学生希望あり。願書、推せん書、出張の折に持参の筈なり。

□□□□□（一年）推せん順位未記入。

全員83、在籍72、投票数 有効66、1本2、2本63、3本1 無効0、棄権6
生徒の希望は白線2本なり。

6. 下駄箱に名票添付、整理を命ずる。

六月一日(火)

奨学生採用通知来る。一年□□□□ 昭23高第18号、
1000円4月より。

六月八日(火)

東北学生新聞第52号来る。19部のみ。追加分未着。

六月九日(水)

東京大学新聞受領、配布す。

〔東北大学新聞受領証写し、小為替受領証が貼付〕

六月十一日(木)

奨学生不採用通知 理科二年 □□□□

採用通知 理科二年 □□□□ 昭23高第1594号、
1000円5月分より。

理科二年 □□□□ 昭23高第1595号、
1000円5月分より。

一年 □□□□ 昭23高第1151号、

” □□□□ 昭23高第1596号、

六月十二日（土）

1. 育英会（調査係）より学則等の請求あり（切手封入にて）。先般印刷したる生徒心得抄を郵送す
2. 三陽商会より砂子器具追加分請求書、昨日来り。県庁へ出す。
3. 和光純薬より第三回薬品追加分の書類、昨日到着。着荷后請求書附送予定。

六月十五日（火）

□□□□、退学につき奨学生選衡見合せ願ひを出す、と同時に願書、推せん書各10部、送附方（切手添附の封筒同封）依頼す。↓23日着

六月十九日（土）東北学生新聞社へ追加分未着の問ひ合せ出す。

六月二十二日（火）

1. 奨学資金 □□□□、□□□□、□□□□、分自四月至八月分迄各5000円到着。安田銀行、小切手にてくる。明日受領し、六月分迄配布予定。のこりは預金のこと。

2. 薬品戸棚到着 3. 図書整理。

六月二十三日（水）

1. 安田銀行に行き奨学金□□□□外二名分計一万五千円受領し、その中六千円を校長名にて預金し、各人に三千円づつ交付する。

同右生徒受取及び学校長領収報告書、取引銀行関係について、学資課にあてて郵送す。

2. 奨学希望者身体検査、明日1.30p.m.県立第一病院白田医師にて行ふことになる。その旨、希望者五名に通知す。

3. 学校の身体検査は七月一日(木)、九〇〇より本校にて行ふことになり、それ以前に測定できるものは測定することに決める。↓宮田先生と相談の上

六月二十四日(木)

奨学生希望者身体検査。

六月二十九日(火)

1. 奨学会より□□□□□□、不採用通知来る。

2. 東大新聞社 1079 1080 合併号来る。1078 号未着にて問ひ合せ出す。↓7.15 11部着(1078号)

3. 和光純薬より第四回薬品の通知くる。
HCl 5kg
C₆H₆O
CH₆H

第三回未着につき問ひ合はせ 6.15↑返事なし。 4. 会計検査。

六月二十六日(土) 二十七日(日) 運動会

六月二十八日(月) 休日。

六月十九日より図書整理をして2-3程片づく。 25日迄補助カード整理。 26日整理、同日よりカード書き込み。

六月三十日(水)

1. 一年自治会、二限より四限迄。 2. 一限一、二年休講(倫理)

3. 午后、身体検査(測定検査)実施す。欠8名(休学1名を含む)

4. 一年□□□□□□、□□□□□□、□□□□□□、□□□□□□計5名の奨学生願書、推せん書を送付す。

5. 放課后、輿論調査について委員と教授の懇談会あり。

6. 薬品到着 (HCl

Cu
Mg

CH₃OH

七月一日 (木)

1. 九時半近くより医師による身体検査実施。

内部検査、ツ氏反応 (一、工?) に対して。

一年は四限授業、二年は本日授業なし。

2. 二時半より四時近くまで前日にひきつづいて委員と懇談会。

七月二日 (金)

1. 二限より四限迄、大学昇格に対して生徒大会、教授懇談会あり。

2. ツ氏反応及血沈測定の為、二年40分授業、5限のみ、6限なし。一年5・6限なし。

↙ 高橋先生引率にて一、二年の順にて行ふ

3. 本日より図書貸し出し開始。

七月三日 (土) 三陽商会、和光純薬より来借。

七月五日 (月)

身体検査、第二回分 (欠、ツ反応未行者)

七月六日 (火)

昨日ツ反応検査測定に医師来校さる。

七月七日 (水)

三陽商会、和光純薬に返出し。

七月十五日(木)

1. 東大新聞 1078号及び1082号到着。

2. 東北新聞 54号(6月25日号)未着につき問ひ合せ出す。

55号(7月5日号)到着は8月頃(21部)

3. 製本(演習高等数学講座10冊)図書カード1000枚、中央印刷に注文する。

七月十六日(金)

奨学資金交付す。

一年 、5~8月 4000.- 7~8、2000.-

二年 同右 同上

7~8 2000.-

七月十七日(土)

1. 三陽商会へ取引先銀行問ひ合す。

2. 和光純薬より第三回薬品送附通知及請求書来る。

七月十九日(月)

1. 七月十八日(日) 和光純薬より二ケの中、一ケ到着。
2. □□□へ奨学資金受領方催促出す。

七月二十一日(水)

1. 硝子器具整理、アルコール、びん返却する。
2. 昨日図書整理終了す。全部返却し又貸出す。

七月二十二日(木)

1. 薬品(Zn Fe) 未到着分小荷物係に問い合わせたるも不明なり。甲片必要とのこと。従つてこの旨、和光純薬に申し送る。又、メタノール塩酸の買受書及び取引先銀行問い合わせ出す(控あり)。

七月二十三日(金)

1. □□□に奨学資金渡す。
2. 育英会学資課へ受取発送する。

一、□□、□□、□□、□□□、四名分の一万六千円の受領報告書。

二、自七月式千円 □□□□、□□□□、□□□□、三名。

三、自五月四千円 □□、□□、□□、□□□、四名。

八月五日(木)

四月に八月初め到着の和光の甲片にて調査するも、これは既に返送済にて再調査の要あり。

甲片返送及び問い合わせ出す。控あり。

〔和光純薬工業会社東京支社宛控えが貼付〕

休暇中育英会関係

八月十八日

□□□の採用通知あり、昭23高第2157号、七月より1000.-円

□□□□の不採用通知あり。

八月十九日

奨学関係事務取扱要項送附さる。

八月三十一日

□□□□外六名分の9・10月分奨学金送附通知あり。
14000.-

八月十七日附にて安田銀行秋田支店より入金通知あり。

九月一日（水）

①始業式、注意伝達事項、1. 環境の美化、2. 校長室その他の部屋への無断入室禁、3. 大坂栄一先生の件、
4. 身体検査費用の件、5. 図書の件。

②□□に奨学生決定通知を渡す、③図書課ひきつき、④新聞配布。

九月二日（木）

1. 木内にて文房具を宮田先生と定める。

2. 三光堂にて無機化学(中)購入。
3. 石川書店にて植物学 」 支払について注意。
4. 安田銀行に奨学資金受領に行き、左の通り交付す。
□□、□□、□□、□□、□□へ
5. 和光純薬へ返事出し。(控あり)

九月三日(金)

1. 九月份奨学資金、□□、□□□□へ交付。
2. 事務取扱要項により奨学生原簿、現金出納簿、送金通知の綴を作製す。
3. 九、十月分受領報告書(二万四千元)及、六、七、八月分の受払報告書、学資課へ呈出する。
4. 午後職員会議。

九月九日(木) くもり、風強、午后雨
□□□□にあたる。前回靴下をもらったものを除いて抽せんす。

1. 児玉事務官本日来任。
2. 午後、自治会(三時半迄)
3. ハイキング、略、寒風山に決定。
4. 奨学生出願期限について問ひ合せ(校長)
5. 北高校附近にての運動についての注意換気(七月)

九月十日(金) 晴、くもり

1. 和光純薬に前回の受取及び毒劇物買受書送附。及び定性分析用試薬を■にしたのむ。(控あり)
2. BCGワクチン接種について先週、人員調査したのでその交渉を校長先生にしたのむ。
3. 一年クラス写真撮影。
4. 午後職員会議。
5. 先日抽線の洋服来る。□□に交付する。

九月十一日(土)

寒風山ハイキング。職員・校長、宮田、菊池、高橋、井上、小野田、児玉、高橋(女)

生徒・一年25 二年24

十時四十分秋田発船川行列車にて十二時十分脇本着。一時二十分より登山開始。約一時間后、頂上着。会食。四時半下山開始。駅にて開散。

児玉事務官及び生徒五名先発し、さつまいも、梨の購入にあたり登山前に各自に分配す。あまりおいしくなし。朝より雨もよひなるも登山中、降雨なく、眺望稍良好であつた。

九月十三日

1. 和光純薬より葉書来る。
2. 校友会より左記金額立替にて和光純薬に支払ふ。

薬品代

1904.-

(書簡の控あり。受領書を同封して判をもらふ様にする)

小為替料金 35.-

切手 50.- 小為替、書留にて。

書留料金 25.-

計 1969.-

3. 和光純薬より、FeS Zn到着す。

4. B C Gの件につき、県衛生部へ行くも保健所と連絡されたいとのことにて秋田保健所に行き、黒丸氏に左記
依頼す。 Tel. 3078

(i) 九月末にB C Gワクチン入手見込につき、他校と合同にて（本校は僅か13名であり、ワクチンは100名が単
位になつてゐるから）接種する。

(ii) 時間、場所については迫て通知する。

右B C Gの件は、校長先生より県立病院に依頼したるも、ないから、いづれ入手次第にといふ回答があつた
からである。

5. 本やで本を買つてくる。

(汽)車時間表、化学序論1、2、↓三光堂

哲学小辞典、理論応用ムキ化学、解説ムキ化学↓石川

九月十四日（火）

1. BCGの件、校長に報告。
2. 和光純薬への送金受取を事務室へ（佐藤氏へ）
3. 開襟シャツ、二年9、一年8、抽せんする様話す。

110.80 5点

九月十五日（水）

1. 二年、シャツ代金集めも、一年未調の為、辻にとりに行けないでしまふ。
2. 佐藤要一郎薬品店（十字屋）へ行き、薬品、硝子器具等を求める。
午後二時半頃もつてくる。校長先生に一応了解をえなければならぬ由。

九月十六日（木）曇后雨

1. シャツ代金、及び衣料切符ともつて辻へ行く。受領し配布す。
取引高税の印紙をもらつてくる。箱に入れる。生徒がもつてきたものもある。□□に配給した洋服の部分品ののこりももつてきたので交付する。
2. 昨日の薬品及び器具について校長に話す。承諾される。これを含めて、約二万円をこんな費用に使ふ承諾を得る。購入の方法は校長の許可を得て、事務から買つてもらふことである。
来年度で生徒から約100円とつて各自に必要な器具を買ふことをみとめてもらふ。これは寄附の形にしてもらひたいと考へてゐる。
3. 中食休みに校長室で自治会委員と懇談あり。

校長より自治的に左の点を行はれたい旨の話あり。

1. 教室掃除をよくすること、
 2. 黒板を消すこと（掃除当番）
 3. 取引高税の印紙を提出すること、
 4. 下駄は下駄箱に。
 5. 便所では一步前進のこと、
 6. キヤッチボールを校舎附近でしないこと。
 7. たばこの吸がらに気をつけること。
- ついでに□□に休暇中のアルバイト調査を話す。様式を等へ統計をとらせる考へなり（校長先生より話ありたるにつき）

4. 第7限に一年化学補講をする。宿直なり。

5. 十字屋くる。（未持参品、小■■2、とりかへ1）

九月十七日（金）

1. □□、□□、全国自治連の大会で上京する（18、19日）

これに、三陽商会へデシケータの皿のとりかへ、和光純薬へ薬品の在庫、入庫見込、価格を問ひ合はす。

2. 十字屋、不足品をもつて来校。和光純薬の様に薬品について問ひ合はす。

3. 職員会議

①□□、□□、土、月の欠を出扱いの件、②十和田旅行は希望者1—2以下のときはやめる。不参者は登校する。為に職員が一名のこること。③PTAについて。④対外交渉は校長と連絡をとつて行ふこと、⑤旅行について、

⑥体操教師の件、⑦給料の件

4. 育英会より育英第二号二部送附さる。一部揭示にし、一部保管す。

九月二十二日(水)

1. 十字屋にて見積を請求する。
2. 和光純業より受取来る。更に未払分ある由にて事務に任す↓清水君に公文書
3. 石油、ベンジン到着につき入れる。

九月二十三日(木) □□、□□帰秋。□□報告にくる。

九月二十四日(金) 晴

教官会ギ(於校長室)

1. 校舎の件につき知事に交渉之話。2. 体操教師の件。
3. 校務分掌の件、ひいては工場見学の件
4. バツヂ、ボタンの件(サカキ原、新大工町15、電車のり場近く) 日の出キ章
5. 旅行の件

九月二十五日(土) 晴

東北振興パルプ秋田工場見学(あらや)

生徒一年25名、二年22名 計47名

教官 菊池、井上、高橋、小野田

九時半より一時半迄見学。解散。

九月二十七日(月) 曇、雨

十字やくる。薬品見積り請求書き直させる。□□、デシケーターの中味とりかへ薬品調査持参する。

九月二十八日（火）晴

1. 育英会より□□の七ヶ月分送金通知くる。
2. 〃 出願期日について回答くる。
3. 育英会より委員部設置に関して書類来り、案を作り呈出。許可をえて事務より発送してもらふ（公文書、控あり）

4. 十字やくる。予算を考へた上で器具の見積りを再びさせる。

5. 十字やにて天秤の実物を見る。島津製品にて使用しうるものである。

6. バッチの件につき、□□に希望者数の調査を命ずる。

九月二十九日（水）はれ

1. 銀行へ行き11.引き出す。□□に7ヶ月分4.渡す。

十月分を明日渡すことにして揭示出す。

2. 育英会へ□□分受領報告書、□□外7名分受取、9月受払報告書送附す。

3. 十字やより見積り着。校長の許可をうる。

4. 文部省施設局よりの試薬あつせんの必要品を書いて事務に出す。

九月三十日（木）はれ

1. 奨学資金を交付する。（受取書数不完全、3名□□、□□、□□□□）
2. 十字屋きて追加薬品たのむ。

3. 育英会より明年度卒業予定者調査来る。該当なしの公文を事務に命じて作製させる（控あり）
十月一日（金）はれ

1. 和光純業より九月十日附差し出しの返事、及び九月十三日着のZn FeS等の受取書不備につき手紙到着。
2. 教官会議

①時間を正確に。掲示の徹底、②PTAについて、遊行順序について、③旅行について（車中態度、船、バス、防寒注意）、④大日本育英会本校委員部設置に関する件、⑤父兄会設置について、⑥生徒■の件、⑦選挙の件、
⑧教ム課長会議報告の件

進学適性検査 受附 10.20 | 11.15 写真一葉、受験料 100.-

検査日 1.31 新制大入試 3.10 | 3.20 二期

新制大入試要項について。五課目教課。新制高校三年卒程度。

社会：一般社会、時事問題、国史、東史、西史、人地、中一

国語：必修のみ。従つて漢文なし。

理科：物、化、生、地、中一

数学：解析一、二、幾何、中一

外国語：英、独、仏、中一、or一ヶ国語のみ。

各校により三課目内でも可。

受験資格：旧制一年。二年は在学のみ可。

⑨土曜宿直の件

3. 十字や数種薬品持参。

十月三日(日) はれ

PTA 発会式。総会、役員会、
9.30 ↓ 4.-

十月四日(月) 雨

1. 明五日休校の掲示は、文部省より、午前 or 午後のみ休講の通知あり。従って明日はこのまゝとし、代行は16日(土) 午后行ふことに決定↓いづれ会議の上決定することになる。2. 旅行打ち合はせ会

十月五日(火) 雨

休校。教育委員選挙。

十月六日(水) くもり

1. 旅行について注意あり。

人員 一年19、二年18、教官5。

分担は教務にて決定。

2. 十字やKC^a持参。

3. 臨時教官会議

① 旅行の件

行く者への注意。(事故。殊に乗船注意。ボート禁止、風紀上の注意)

残留者 〃 (授業通り、自習、諸事、公判傍聴)

一年は土曜は休み。

② 見学は当分とりやめる。

③ 月曜に会議

4. 和光東京支店へ手紙出す。(控あり)

2057- は既に支払済みである。これをいつてやる。

十月七日(木) — 十月九日(土) 十和田旅行

参加者一年20名、二年18名、教官5名 計43名

日程 十月七日(木) 晴、五時五分秋田発。生徒、教官、沿線各駅より乗車。大館着八時三十分、大館発八時五十分、

宅厚内着十時二十分。毛馬内にて木村博君迎へに出てゐる。省営バスにて(特発二台) 十和田へ。和井内

ホテル着十二時十五分。異常なし。

中食后、遊覧船にて休屋をへてふの口へ至り(船故障の為、休屋にて約一時間休憩) 奥入瀬の溪流を一時

間近く散策。再び遊覧船にて五時ホテル着。一泊。二年の一年へのストームあり(朝三時)

十月八日(金) 晴、八時半及び九時のバスに分乗して休屋に着。全員(□□のみ頭痛—自動車によふ為—)

ホテルにのこる。■コ台に至る(約四K.M.) 十一時着。中食。十二時発。一時休屋着。二時に特発バス二

台に分乗して三時大湯温泉着。ホテルに一泊。

この日、朝ボート乗船を願ひ出るも万一を思ひ、又校長との約束により許可を与へず。夜は生徒一、二年對抗ジエスチャ―あそびに興じ、三時頃寝につく。女子入浴は他の旅館を借りる。

山本視学来訪あり。同泊し種々の話をきく。

十月九日（土）晴、大湯にて解散する。併し九時のバスにて全員（一台、トラック特発）馬内に至り一年の大部分は高橋先生とかへる。のこりの生徒は（女生徒全部を含む）教官（除高橋）と共に木村氏宅にて休憩し一時出発。一時四十分発にて大館着三時十分。大館散策后、大館発四時五十分（汽車や、おくれ）にて帰秋。

木村宅にのこりたるもの数名あり。宮田兄も又毛馬内に一泊さる。

好天に恵まれ、生徒の意気あがり、快適なる旅行なりき。

生徒相互の理解、親善に役立ったことは争へない。故障者なく、一同元氣であつたことも、及数は少いとはいへ特記すべきであらう。又、生徒はさすがに自治的にてよく命令を守り、規律正しく品位ある行動をしたのは喜ぶべきことである。計画された先生、及び生徒の労を多とする者である――十月十日夜、宿直室にて記す。

十月十日（日）くもり

宿直の為出勤。

和光より薬品の見積り到着してゐる（10月6日附速達）

既に大部分購入済の為、不要である。価格の点もあることはあるが。

十月十一日（月）晴

1. 和光へ返事出し（控あり）
 2. 校長に旅行の報告。
 3. ノート配給につき学校購買より切符を秋田県教育資材有限会社へこのハガキ来るも三伝へまはしたのでやめる。
 4. 育英会より名称変更通知受領。
 5. ” 採用者決定通知くる。交付する。
- | | | | | | |
|------|--------|-------|--------|-------|----------|
| □□□□ | 昭和23高第 | 3421号 | 500.- | 九月分より | （九月三十日付） |
| □□□□ | ” | 3422号 | 9000.- | ” | （ ” ） |
| □□□□ | ” | 3423号 | 1000.- | ” | （ ” ） |
| □□□□ | ” | 3424号 | ” | ” | （ ” ） |
6. 育英会より不採用者決定通知くる。↓12日に通知。
□□□ 一名。
 7. 東大新聞（1072号）着。渡す。
 8. 師範問題につき□□、□□と校長室で懇談。（中食時）

他校自治会のことは他校で任す事。冷静な判断で行つてみる事等話す。

9. アルバイト調査。校長に提出。職業安定所による。アルバイト調査に付、調査くる。結果を複写して校長に出し、公文書を作つてもらふことにする（原文保存。一枚校長保管、一枚呈出）。
10. □□、来り二ヶ月休学を申し出る。校長と共に話し寮を出る様話す。

十月十二日（火）

1. 十字や薬品2本持参（KBr NHとS）。
2. □□欠席届持参。校長許可。教ムへまはず。
3. アルバイト調査公文書出来。

十月十四日（木）雨後曇

1. 昨日、日の出徽章や来た由。小生出勤しなかつた為、会はず。
2. 公共職業安定所へ行き、アルバイト調査を渡し、いろいろきいたのんてくる。校長に話をする。
3. 十字や、多硫化アニモン持参。
4. バツヂの件につき生徒くる。一人二個位買ふとのこと。明日バツヂやがきて更に話をするににした。
5. 盗難が此頃あることを生徒申し来り調査を命じ、数件を紙に書かせる。
6. レコードコンサートの件、校長より話あり。

十月十五日（金）晴

1. 教官会議

1. 校長提案の交際会（仮称）の件↓決定。

2. 学校購売の会費に関する件↓留保。
 3. 名士の講演の件↓杉村院長をたのむ予定。
 4. 体操の先生の交代（師範、佐藤熊太郎）
 5. 給仕候補者の件↓17才
 6. 事務分掌の件
 7. 文房具は自弁のこと。
 8. 文化的行事の件↓レコードコンサート。
 9. 会議はパンクチュアルに行ふ。
 10. 運動会の件。
 11. バツヂ、帽子、その他の件
 12. 雑件
 13. 盗難事件の件↓生徒注意で喚起する。
2. バツヂや来校。左記注文 ↓生徒の意見により教官会議で決定。
1. バツヂ：銀イブシ、三角切ヌギ、ネジ止、1.5cm一辺、矢を6本金で浮す。
- 型代4.00-を入れて一ヶ25〜30円。150ヶ注文。
2. 耳章 2ヶ1組
3. ボタン 9ツ1組
- 35.- 5.-
- 製作は100組づつにして買入れは68組

3. 硝子器具、品物申込書来る。↓不申込。

4. 学校購売会に加入すべきか否かの調査依頼さる。

十月十六日(土) 晴

1. 学校購売に行き、種々尋ねる。

・大体に於いて品物は小、中学校向きのこと (50.-納入)

・新制高校以上のもものときとしてある (15.-)

・鉾専も師範も加入してゐる。

・年六分の利子がつく。集めた金はいつでも出せる。謝礼もある。

・加入してゐるのと、品質良好で数量の少い品物はまはしてもらへる等。

かへつてきて校長に報告する。再考される由。

2. 十字屋に行き、見積書提出を請求する。

3. 三光堂にて図書の件につき相談(ムキ化学)(化学実験)

4. 校長より井上先生を生徒課員にしてみらつてもよいとの話あり。考慮させて頂く。

5. 本日授業は一年は物数変化、二年は午後変化と、五日(火)休業の代りに行ふ。

十月十七日(日)曇、午後一時雨。

宿直の為、来校。図書が乱雑である様なので、並べる。―少し。井上先生と十一時頃迄話す。

十月十八日(月)曇、木枯強し。

1. ノート配給。125冊。一年49冊、二年46冊、別途30冊。抽せんによるものは次回のさいの抽せんより除くこと

として、氏名を提出させて記入す。代金^{12.62}なるも13.-集め、のこりは校友会に寄附の形をとることにする。
↓井上先生に徴集をやつて頂く。

2. 井上先生生徒課員の件につき校長に承諾を伝へその旨決る。

3. 大学新聞（東京）
1093号到着。

4. 十字や来校。第二回分代金もらった由。追加等たのむ。

5. 和光純業より書簡。未払代金云には誤りの旨、又受領書等は到着の旨。詫びてくる。尚^{21.-}の残高あるとのことにて^{K₂Cl₂}を（100gにて^{20.-}）たのむ。送料省く。不可ならばやめてもよい（控あり）。

6. 進藤講師休講の為富田先生行はれる。

7. 二年村上の夏季休暇中のテニス用具使用について小使よりいろいろきく。即ち、□□、その弟、□□某（友人）は、休暇中早朝より登校来校し、小使の門をあけるや否や校内に入り、挨拶もせず、又無断にて教官室に入り用具をもち出し、テニスを為し、夕刻は用具を放つて（生徒下駄箱上に）帰宅し、小使がとりかたづけたる後は、翌日朝再び同様な行為をなす。又、玄關の戸のあかないときは裏により無断で侵入し、同様な行為をしたことがしばしばであるといふ。夏休み後半に於いて、□□がこのことを注意するや反つて、くつてかゝる態度であつたといふ。又□□よりその弟、友人が先に登校し同様の行為をしたといふ。而も今学期以後、生徒昇降口の硝子戸が破損すると、そこから手を入れて錠をあけて入り、同様の行為をしたことをきき、課長として、又部長として、今迄の未知を恥じ明日きとす決心をした。

十月十九日（火）くもり、晴

1. □□に前日きいたことを話して反省を求めるも、弁解の態度のみ多く、誠に遺憾である。課長として、又部長として校外者には絶対に庭球用具を貸さないことを言明する。

□□（総ム委員として）、□□（□）、□□（庭球部委員として）をよび前項の概略を話し、こちらの決心、決定事項を話し、委員として、又然る様命令する。

3. 富士銀行秋田支店より、^{29600.-}の入金通知到着。□□その他の原簿未着につき、到着次第銀行に行く予定なり。

2. 前事項を校長に話して了解を求める。

4. 事務より表紙二組もらひ厚生関係及自治会資料を整理する。

十月二十二日（金）曇

1. 三伝にノートの代金をもたせてやる。受領書をもらつて貼附してある。

2. (1) 教官会議交際会の設立はしばらく見合はせる。

(2) 新制大学入試、適性検査の件。

(3) 旧制大学入試の学課目について。

(4) 授業料値上（80.-↓120.- 新制高校 60.-↓100.-）

(5) 配給靴の件、配給の件。

a. 配給委員会設置する。教官2、事ム1名、選挙による。別個に行ふ。

b. 今回の靴は全員が委員と考へる。

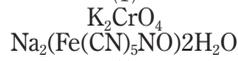
c. 将来の配給は委員会に任す。

d. 決定は校長がする。

十月二十五日（月）雨

1. 和光よりハガキ。出荷案内、納品書到着（エオシンのみ2本）

2. 十字やより Hg
HNO₃
(1)
K₂CrO₄
着（土曜に持参の由）



3. 和光よりエオシン2本到着。書留小包み。切手20.-糊附。

よつて受領書送附。

4. 育英会より原簿、送金通知等到着。

5. 全国自治総連合より、二高生2、師範1、来校。本日秋師にて大会ある為その説明にくる。四限を一時間さ
いて行ふ。活潑な討論ありたる由。

十月二十六日（火）くもり

1. 富士銀行に行き、
29600.-を入れる手続后、
6800.-引き出す。

□□、□□、□□、□□に各9ヶ月分貸費証を渡す。

2. 育英会10月分の帳本整理を為し発送できるばかりにする。

十月二十八日(木)曇

1. 育英会十月分報告発送。

2. 太陽堂書店へ化学実験の本の問ひ合せ(ハガキ)出す。

裳花房 化学

3. 校長より消ゴムの件(配給)につき話あり。

4. 十字や見積書持参す。

十月二十九日(金)くもり

1. 消ゴム配給↓一年45、二年43(生徒数より8ヶつつ余分に渡す)

2. 教官会ギなし。

3. 三光堂へ行き二年生11名注文の石川の詳釈ムキ化学を注文する(定価通りの約束)

十一月一日(月)はれ

1. 十月三十一日(日)行ふ予定の運動会は天候不良の為中止。

これは大体廃止になる模様である。

2. 消ゴム代金集まる。

一円34銭×100ヶ=134.- →□□・□□方へ

16銭×100ヶ=16.- →□□ヶ (校友会へ寄附)

ノート代金分割 (一年生) 18.62 も□□ ” (”)

3. 本日教官室模様がへ。新しい給仕くる。北条実職員。
4. 校長先生より生徒課に関する帳簿整理の件命ぜられる。

その折に完了してあるから、今後すべきことは、生徒課長として生徒に与へた訓辞・掲示等の整理―日誌より抜すい―よりないと思ふ。

5. 十字屋来校。追加薬品見積書及び現品10種持参する。硝子キ具の追加3万円を作る。

十一月二日(火)はれ

1. 奨学資金^{11400.-}払出し、□□を除き交付。
2. 十字や来校。見積書を請求。アルコールの件決す。

三日文化の日 休講。

十一月四日(木)くもりのちはれ

1. 十字や来校。見積書について打合せ。
2. □□登校しないので学資渡せず。
3. 本日より授業時間変更。

十一月五日(金)晴

1. 教官会議

1. 配給委員の件 □□、□□□□

大物と小物の区別をつけることなど。

2. 用紙の配給の件

十一月八日(月) くもり

1. □□□□に奨学資金500.-交付。

2. 十字や来校。 $H_2SO_{4conc.}$ 4本(2 kg)、蒸留水一本持参。整理する。

交換用ガソリン一本をやる。二三日後にアルコール持参とのこと。

ガソリンは購入のとき容量かなり少く、残りは少い(一本の2/3位)。

3. 和光、裳華房より書簡、葉書到着。
4. 三光堂に七冊代払ひ。四冊持参。

(昭和23年11月8日付の三光堂書店の領収書が貼付)

十一月九日(火)

1. 育英会より書類二通着。大学入学後及増額■■について。
2. 育英会願書(□□□□□)一通受理。同人書、中村委員に■■をやる様に書類を渡す
3. 十字や来校。器具持参。校長室押入れ下段に整理。石油もつてゆく。
4. 靴修繕や来校。校長の了解をえて生徒に話す。

市価より安く早い由（女学校、小使室、今週す）

十一月十日（水）くもり

第四限休講時を利用して自治会開催。熱意なかつた由。

1. 全学連参加の問題。――2―3位にて可決。

2. 文部次官通牒の討議――討論のみ。

3. 秋師問題につき　　――　　行はず。

生徒の熱意なく一部の者に左右された由。

十一月十一日（木）くもり

十字や来校。器具持参。石油、ガソリンの代りのアルコール6本持参す。整理す。産業図書より在庫表くる。

十一月十二日（金）はれのちくもり

教官会議（1.40――4.00近く）

一、休学の件

1. 一学年休学者は原級にとゞめる。

2. 二ヶ学期の休学は及第させない（一ヶ学期の成績の如何を問はない）

3. 一ヶ学期の休学は原則として、公認して休ませ、授業・試験も免除してあるからその学期の成績は入れな

い。他の二学期の平均の80%以下をもつて学年成績として審議する。事情を教授会で審議の上決める。

二、健全娯楽の件

1. □□、□□、□□、□□が十一月三日、マージャンを教室内で行ふ。

2. ピンボンの件。 3. ダンスの件。

① ダンスの件 ↓校内で禁止する。

② マージャンの件 ↓校内で禁止する。

③ 放課後四時半に学校を閉ぢる

④ 休日は一切学校を開かない(特に許された場合の外)

⑤ 女子は宿日直させない。労働基準局より宿日直許可となる。

⑥ 明日のレコードコンサートの為、午後の時間をなくする。

三、開校一周年記念について。

1. 行事案

A 式↓15日 校内文化祭、懇談会↓24日

B 休暇をのぼして、15、16日に行ふ件。

種々の案出たるも、小委員会にて立案し、会議をへて決定することになる。

2. 委員

生徒 自治会より一年二年各二名。

教官 二名

事務官一名

四、自治会の件

生徒課で話すこと。

全学連加入の件↓生徒は加入の決議をしたるも加入しない方を至当とするのでさういふ方に指導したい。

五、生徒湯茶の件

二年 廊下つきあたり、一年控室。番茶。

六、盗難の件

一年 □□□□ 編上靴 (11円)

七、講演の件

来週火曜か金曜にやつてもらふ。

八、秋師問題についての懇談。

九、時間割変更の件。

十一月十三日 (土) はれ

午後の物理一限を休講にして、1230より第一回レコードコンサートを行ふ。会費15円。20名近く参集。

カルメン (全回)、第五シンフォニー、ムーンライト、ソナタ、未完成、ヴォルガの舟唄、etc. あり。

電蓄借用。レコードは小玉、富樫先、八代が提供。

終了4。校長、富田、井上、小野田出席。

十一月十四日 (日) 雨后天晴

日、宿直の為来校。生徒訓辞の整理を為す。

十一月十五日 (月) くもり

1. 創立記念会準備委員委嘱さる。

委員長富田

委員 小野田、兎玉

生徒 □□、□□、□□、□□

2. 生徒訓辞につき了解を求める。

3. 英語文通についての書籍来る。

4. 十字や、石油空びん持参。

5. 生徒の紛失の靴二足(□□、□□)出る。□□分未。

[11月15日付の三光堂の領収書が貼付]

十一月十六日(火) 雨、曇

1. 全校自治会第三限↓第五限。

a. 全学連参加、不参加問題。45—8にて不参加決定。

b. 自治会改組、運営の件

2. 校内風紀、物品保管について一、二年に訓辞(第一、二限)

3. 開校記念会委員会開催(第六限、於教官室)

4. 十字や来校。スタンドをおいてゆく(一ヶ)。

十一月十七日(水) くもり

1. 英文手紙交換氏名集↓2年15、1年16名↓事務ヘリスト作製たのむ。

2. 中食時、校長室にて自治会委員と懇談。

1. 湯茶のみ場設備について↓2年廊下、1年控室、11時↓1時、各人湯のみ、当番、明日より。

2. 大学訪問前金切について

3. 自治会の活動について：生活調査、4. 講演場について

3. 第二回開校記念委員会開催（第五、六限、於教官室）

笹木幹事、来校されて種々懇談。評議員会を開いて案されることにする。

十一月十八日（木）晴

1. 第二限終了後より中食休、第四限にかけて創立記念行事について、全校自治会開催。この始る前に校長先生

より明日の講演について注意あり。

2. 十字や未着品をしらべにくる。

3. 英文手紙交換について、リスト作製（事務室に控あり）。

十一月十九日（金）曇後雨

1. 第一、二、三限杉村博士講演あり（行路難）

2. 十字や薬品持参。
NaCO₂
NaHSO₃
まちがいか。整理する。

3. 教官会議なし。

十一月二十一日（日）快晴

父兄会役員会開催。十時半―正午。於校長室、9名。

十一月二十二日（月）快晴

一、十字屋、器具、薬品持参。

二、校長より寮についての話あり。↓訓育上のことを考へる必要あり。

十一月二十三日（火）快晴

勤労感謝の日につき休校。

十一月二十四日（水）晴后くもり

一、生活調査、原稿、校長許可。

二、記念会準備委員会第三回開催。校長の講話決議。

三、十字や来校。キツプ等とりかへたのむ。

十一月二十五日（木）風雨

一、第四回準備委員会開催。大綱を決定する。

二、育英会事務整理。

十一月二十六日（金）風曇、霰

一、教官会議

1. 高校長会議報告

・新制大学は設置申込219校（中、官立67）

・旧制高校は新制大学で一般教養課目を担当する。

・白線浪人は7300人。大学の收容能力を増す様に依頼してある。

・大学法について。国立自治大学、理事会案。

・大学の発足（公私立24年3月、官立24年9月）

・大学教員の審査は嚴重である。

・28年は旧制大学は半年短縮され27年9月になるかもしれない。

・大学定員予想、文 8200（旧） 9300（新）、理 15300（旧） 14900（新）

・現在の二年生が卒業して大学入試に失敗したときは旧制大学に入れない。

・新制大人試準備は行はない。

2. ストーヴの件

一日分を決めて小使に運ばせる。最後の授業時間迄。責任は当番。

3. □□□□、□□退学の件。

4. 小使の件

5. 一周年記念式の件 ↓別紙。

十一月二十九日（月）雪 欠勤

十一月三十日（火）雪、くもり

一、育英会より明年修了一年奨学生卒の卒業後の連絡場所の調査来り、公文書作製を事務に命ずる。

二、十一月分奨学資金受払報告、生徒受領書と共に学資課に発送。

三、記念会付て

・記念号を発行しないことを小玉に断る

・招待状をもつて宮田先生県庁へ、高女へ。

十二月一日(水) くもり

一、育英会よりひき出し、12月分支給する。

11400.-

二、□□□□出校、退学決意。奨学資金辞退願の願書様式を教へてやる。十二月分は交付しない。

十二月二日(木) 雨後くもり

一、午前中、行事練習。午後も時間をもらつてやることもあり。

二、準備委員会合。

十二月三日(金) くもり

教官会議

一、試験、休暇、五日制の件

A 試験 12.20 (月) | 25日(土)迄。23(木)を休日にする。

2 課目×4日

2年

3 〃×1日

3 〃 × 2 日
2 〃 × 4 日 } 1年

期日発表は 12.13 (月)。成績会議 28 日午後 (27 日迄検点完了)

成績通知 12.28 ~ 29 日。封筒、切手は各自負担のこと。

B 休暇。二日延期して、12.27 (月) — 1.22 (土)。1.24 (月) 始業とする。

C 三学期の五日制について

原案は二年より生物を二限さいて週 33 時間として月 ↓ 金 6 限、土は 3 限とする。

一年は独数を交替にて二限さいて週 30 時間とする。土はなし。

尚二年も土の 3 限をなくする為の考慮をしてもよい。

従つて来学期より左の授業時間割とする。

1. 9.30 — 10.20

2. 10.30 — 11.20

3. 11.30 — 12.20

休 12.20 — 12.50

4. 12.50 — 1.40

5. 1.50 — 2.40

二、ストーヴの件 (燃料について)

1. 宿直室は夜はたかないで (ストーヴ)、こたつとされたい。

2. 記念式迄は生徒は一時間延長してたいてよい。

三、記念行事について

校長の意見、委員の考へ討論あり。終了3時40分。

十二月四日 (土) くもり一時晴

一年は朝から練習、二年は四限なく午後から練習。

十二月六日 (月) くもり

一、育英会より24年度1、2月分貸費通知。
22800.-

右受領報告書を送附。

二、生徒制服配給の件

原案を生徒に作製させる。

十二月七日 (火) くもり時々吹雪

生徒の練習。自然化する。準備すゝむ。

十二月八日 (水) くもり

午前中予行練習。午後にも一部渡る。

打合はせ行ふ。(会場について) 明日の予定の掲示。

十二月九日(木) くもり、雨

出欠調査後、大掃除及び準備をする。

一部の生徒は途中にてかへりたるも他は熱心によく働く。
打合せ会あり。

ボタン、帽子、徽章出来。控あり。全部100組にて
4000.-

十二月十日(金) 曇、晴

開校一周年記念祝典開催

九時五十分より(リングルおくれた為) 開式、一時二十分迄。

一時半より祝賀会、三時半解散。

出席者

十二月十一日(土) 晴

記念祝典第二日(校内の部)

十時から三時半迄。

折箱、汁粉の接待あり。盛会なり。

十二月十三日(月) 雨後晴

一、午前中後片付け。

一年三限半ばより、二年四限より授業。

学期末考査日割発表表。

二、生徒洋服配給の件、二年、一年内ム委員、□□、□□に割当を話す。

(前回生徒決定の通り校長の承認をうる) 抽せんにてきめる。

同時にスキー配給に関して話をする。

三、秋田保健所にtelし、BCGのことを問ひ合はせる。一昨日北高校にて行つた由。

既に九月十三日に連絡してあるもその後連絡なし。明日 9.30—10.00 の内、電話にて連絡のこと。

十二月十四日(火) 快晴

秋田保健所への連絡忘れて、しない。

十二月十五日(水) 雨時々曇

一、校長と一周年記念祝典の時の生徒の態度について懇談する。

借用物品の注意、取扱方法等について特に注意すべき点あり、と考へられる。

二、秋田保健所と連絡。BCG明朝とりにゆくことにする。

三、一周年の会計概算をする。及び礼状のプリントする。

プリント、あやまりあり。

十二月十六日(木) くもり

一、保健所にBCGをとりによらせる。百人分なるも一人分の5.53にてよい由。

二、右品物を持参の上、第一病院内科にて白田医師より接種してもらふ。

二年、□□、□□、□□□□(□)、□□、□□(□□は陽転云由)
一年、□□、□□□□、□□、□□、□□□□(□)、□□ } 12名

十二月十七日(金)くもり

一、日の出徽章来校。

A 一年大小ボタン40組、耳章48組 + 1640.-

二年 // 45組、大のみ4組、耳章53組計 1950.-

不足分410.-は校友会より立替として残品は校友会にひきわたし

佐藤孝一事務員よりとり扱つてもらふこととする。

B バツデできてきたるも注文と合はず、生徒の引きとりに難色を示したるも、1年30ヶ、2年17ヶ計47ヶを1ヶ
20.-にて売り、又改めて注文(1.5mm矢止は金)する(28、19位のこと。1月末)。なほ35ヶあづかる。尚学校

用に11ヶ寄附。

C バツクル注文の件。

D 耳章追加注文。1年14ヶ(7組) 2年30ヶ(15組) 計44ヶ(22組)

二、生徒（一年）に借用物品の取扱について注意を促す。

三、BCG 代金の徴集。

一年七名	38.71
二年五名	27.65
計	66.36

四、教官会議

1. 帽子、外套かけ記名について。西洋紙を渡して記名させよ（生徒課）

2. 器向の受ゴについて↓生徒課

3. 取引高税の印紙について↓主任

4. 三学期授業の件

二年生も土曜をなくすることにする。三学期を7週として7×3＝21時間であるから

これを特別の時間割をくみためて終りを四日のばす。↓決定。

5. 洋服配給の件↓辻に問ひ合はせて価格をきく↓（辻には未通知の由、従つて代金、品質、又不明）

6. 夜のストーヴの件

7. 受験資格の件

□□□□□、□□□□□は届も出してをり理由もはつきりしてゐるから受験を許可する。

□□□□□（□）は資格なく、受験しても0とする。

□□□、英（宮城）9—25

□□(□) 代数10—25、英(宮) 9—25、倫4—11

本人に校長、教ム課長、生徒課長、級主任より嚴重談論の上、父兄に20日(月)に出頭(一、二日事情によりおくれても可)を求め、学校長より悔告する。父兄出頭しない時は、資格を失ふものとする。

8. 慰労会の件

12.19 (日)、11.30 宿直室、池田、佐々木、笹木氏、職員平常通り。

9. 日宿直料の件

父兄会費より前借の件 ↓考慮する。

十二月十九日(日) 曇、小雨

一、一周年記念祝典慰労会

佐々木高一、笹木節男、池田三郎氏招待にて、一時開宴、四時閉宴。

佐藤(孝) 欠、他は平常通り出勤。

二、□□□□より退学について、奨学金辞退願到着。

十二月二十日(月) 晴

冬晴れの好晴なり。

一、学期末考查開始。一年 代 (9.40—) 独 (11.40—) 国 (1.20—) 二年 微 (9.40—) 国 (11.40—)

二、BCG 代金送附につき事務に公文書作製を依頼。

三、県商工課へ電話した所、洋服配給について詳しい書類が一週間后くる予定につき、それではつきりする由。
四、地下足袋配給10足すみ。

十二月二十一日(火) 雨

一、奨学資金一月分ひき出す。交付当座の通り。

□□、□□□□、□□□、□□

二、富士銀行より430.-入金の通知くる。細目は不明。

三、BCG代金66%保健所へもたしてやる。受領印は(前田)。

四、学校に於ける結核予防接種実施についての報告の公文書作製依頼↓発送す。

五、□□□□退学願並びに奨学金貸与辞退願についての公文書作製の依頼↓発送す

六、バツヂや来校。バツクル注文。バツヂ代金生徒より徴集。

✓ 36ヶ (150.-くらい) ✓ 井上先生より届けてもらふ

七、奨学資金受領書10枚井上先生よりプリントしてもらふ。

八、石けん配給す。職員22ヶ (50.-) 生徒7ヶ (60.-)

九、校長原案(一部修正)の交際会(?)設立について、各職員反対の為、宮田、菊池、小野田、高橋、兎玉、夫々
反対意見をきかれる。

校長は原案撤回の意なるも、会議によつてはとの意見具申しておく。

控あり

宿直料の問題にしても同様なり。

十、 考查第二日 一年 英(宮) (9,40⁻ / 11,10) 国 (11,40⁻ / 12,40) 二年物 (9,40⁻ / 11,40) 英(宮) (12,00⁻ / 12,00)

十二月二十二日(水) くもり

一、 学期末試験第三日
一年 化学 (9,40⁻ / 11,20) 生物 (11,40⁻ / 11,10) 二年生 (9,40⁻ / 11,10) 解析 (11,40⁻ / 11,10)

二、 教官会議

1. 一月分給料繰上支給の件

2. 不払宿日直料の件

a. 支払をしなかつたのであるから判をとり消すことにする。

b. 宿直料としては出せないが、超過勤ム手当と考へれば合法的である。

教官は平日の時間外勤ムはないので、日曜出勤の名目で (一時間で 20.-8hrs // 160/day)

配分することにする。これは在勤着任の時期等によつて考慮して学校長の権限と責任で休暇に入る前に支給したい(校長)。

c. 父兄会よりの借出しは今回はないものとして特別な場合は又考慮する。

これは父兄会総会等で決める。(幹事会でよいのではないか)

3. 図書購入について

a. 図書購入票を用いて購入すること。

b. 図書紛失のない様に注意する。

4. 時間割について

a. 削除は一年…微分…七時間延長（二日のばす）

二年…生物（二時間減）…補講しない。

物、独、微各1は（3×7∥21）前回の様にする。

b. 3.30に終了する為に中食時を20分間にする。

新時間割は明后日迄に発表する。

5. 成績票提出は27日午前中とすること。

28日午前に会ぎ、午後発送とする。

6. 父兄招かんの件

は来校、は未だ。

7. 雑件

a. 生徒の退校時間及掃除の件↓四時半迄にかえる事。

b. 冬季休暇中は事ムは交代で出る。

c. 宿直を明くする為に設備を考へ、ラジオ等を備へる。

三、生徒に教室掃除について注意を与へる。

四、奨学資金交付。、、、。

十二月二十三日(木)曇、小雪

試験の為、中間休み。三光堂より教科書注文についでたのまれる。

十二月二十四日(金)くもり

一、学年末試験第四日

一年 解析 (9.40-1.1.10) 英語(岸) (11.40-1.1.10) 倫 (1.20-2.20) 二年 英(岸)、代、倫

二、日本育英会より23年度下半年期委員部費送附通知来る。

受領書を出す(総ム課あて)

三、一周年記念会計決算打合せを行ふ。

十二月二十五日(土)くもり、晴

一、学期末試験第五日(最終日)

一年 微分 (9.40-1.1.10) 物り (11.40-1.1.10) 二年 化学 (9.40-1.1.10) 独語 (11.40-1.1.10)

二、生徒に(□□)名札はり、障子はりを命ずる。

障子の破れを注意した。

三、□□、□□に二学期の態度、試験態度について注意する。

□□、試験点を0点を希望するも学生らしき態度を望む。

四、一年小クラス会許可願を出す。↓校長に話をして許可をうる。

火の注意、ドライのことを話す。

五、奨学資金交付。□□、□□、□□

六、 ッ 十二月受払報告まとめ送附。

十二月二十七日(月) くもりのち雨

一、記録(一周年) 作製。未記入は会計のみ。

二、成績記入(□□の奨学生願書)

三、一年小クラス会なし↓届出なく、来学ニ注意を要す。

十二月二十八日(火) くもり

一、成績会議

二年 □□、□□の平均点不足

一年 □□、□□、□□

二、教官会議

1. ノート配給品の保存。

2. 校長の回覧について。

三、□□□□の奨学生出願送附。

四、職員懇親会。

昭和二十四年

一月十七日(月) 曇、雪

宿直の為登校。

二十一日(金) 東北大学に於ける新制大入試に関する協議会に出張を被命。及び新制大学の問題について校長より話あり。

一月十八日(火) 雪

1. □□□□登校して、奨学資金下附願書を渡し、本荘中より在学中の席次をきいてくる様話す。
2. 育英会より休暇中に送附されてあつた□□□□の辞退許可の件。

奨学資金増額の件。二年生奨学生の新制大受験の件、一年修了者の借用証書提出の件を受領。

3. □□□□に右書類送附し(書留)、記入返送を求めぬ。

4. 奨学資金増額願に関する書類をプリントする。

5. 出張打合せ。

十月十九日(水) — 一月二十三日(日) 仙台出張

十九日 8.50 秋田 ↓ 17.30 山形 一泊 二十日 5.45 山形 ↓ 8.35 仙台 図書購入。

二十一日 9.30 ↓ 4.00 新制大学学力検査問題作製指導協議会に出席。

理科、社会をうけもつてゆくも全科目についてきく。

二十二日 ■■■ 二十三日 6.25 仙 ↓ 10.20 山 11.04 山 ↓ 19.30 秋 帰秋。

一月二十四日(月) はれ

一、第三学期開始。

二、中食時奨学生に左の通り話す。

1. 成績不振なる者の注意。
2. 二年生新制大入學希望者の調査↓なし。
3. 奨學資金増額について↓願書を渡す。
4. 一年修了予定者の借用証書提出について。

三、教官会議

1. 出張報告について。
2. 時間割を明日より9.00↓3.00とするの件。
3. 薪について↓不足したら各人毎日一本持参のこと。
4. 配給の件↓長靴3、ゴムあみ上げ5、地下足袋、配給案を提出のこと。
5. 本校将来の件
6. ノート配給の件

四、事務へ奨学生中二年生の新制大希望者の該当者なしの公文書作製を命ずる。

五、奨学生願書二通受付(□□、□□)

一月二十五日(火) 曇後雪

一、奨學資金増額の願書作製。

□□を除いて他は全部最高額1800.-を希望す。

事務へ公文書作製を命ず。

二、奨学生推せん書作製。

三、洋服配給について井上先生に依頼。

一月二十六日(水) くもり、雪

一、富士銀行秋田支店へ行き銀行送金の手続をき、小使に命じて
3000.-を送金させる。

□□□□ 12 ↓2月分返還である。送金の公文書作製依頼。

二、育英会へ左の書類を送る。

1. 奨学生推せん書二通(一年□□、□□) ↓奨学課

2. 奨学金増額の公文書作製済みで発送す(書留、速達) ↓学資課

3. 奨学生中二年の新制大入学者なしの公文書 ↓総ム課

三、ノート配給す。

一月二十七日(木) 吹雪、風雨

一、育英会事務整理

二、新制大入試注意事項について一、二限説明あり。

一月二十八日(金) 晴

一、教官会議

1. 校規の弛緩

- a. 教室の乱雑、掃除の不徹底。
 - b. 女学校体操場窓ガラスの破損及女学校授業ののぞき見。
 - c. 授業態度の不真面目↓今後各人の座席を指定する。
2. 校内盗難対策の件
目下小使の交代は不可能であるから、錠をよくかける様にする。
 3. 階下教室と控室の門の扉をしめる。
 4. 生活協同組合加入の可否に関して研究のこと。
 5. 新制大入試の社会科の国史の補足授業はしない。
- 二、□□□□の返送金 銀行送金にて送附↓学資課へ。
3000.-

一月三十一日(月) 晴

- 一、新制大入試、智能検査
- 二、二年生に注意事項訓示

二月一日(火) 晴

- 一、一年に注意事項を訓示。

- 二、ノート代金全部集る。

365冊
20.32
7416.80

三伝へ持参、配給通知再交付も同様持参。

二月四日(金)

三伝より育英会用出納帳、ノート持参。

二月七日(月) くもり

一、校長、帰校につき二月分育英会学資金及び出納帳ノート代 430.- (委員部費) ひき出す。

10400.-

二、□□へ二月分交付。

三、三伝へ右代金持参 (受領書あり)

四、二学期実施の通学生活調査統計を委員持参す。

二月八日(火) はれ

一、□□、□□、□□、□□、□□、□□、□□、□□、□□、□□、二月分交付。

二、育英会より三月分学資送金書類受領。

三、右の受領報告書及び一月分受払報告書を学資課へ送附。

10400.-

四、□□□□へ学資金借用証書提出方催促ハガキ出す。

二月九日(水) くもり晴

一、奨学資金現金出納簿を新しく整理する。

二、十二月分受払報告書の誤(利息記入の為)の間ひ合はせくる。直ちに訂正したもの、十二月、一月分を送る

(公文の控あり) ↓学資課

三、奨学資金増額願をとりまとめ公文作製依頼。

四、育英第三号受領↓掲示す。

五、校長より左の注意あり

1. キヤッチボールを校舎附近にて嚴禁。

2. □□□□(□)の無帽について。

3. 控室清掃の徹底。

4. 二年教室障子張りのこと。

二月十日(木) 晴

一、二月分貸与↓□□へ

二、奨学金増額願、公文書にて提出(控あり)

二月十一日(金) 晴、曇

教官会議

1. 生徒分散コンパの件

期日19日↓二月末か三月のこと。

相別会の意志から会ヒその他は平等のこと。

併しこれは一年に謝恩の意あらば別である。

2. □□□□□□の採点の件

3. 時間割の件、一部変更↓来週より。

4. 一年の時間の件、独6中2を英に。

5. 先生生徒懇談会の件↓隔週木曜放課后 1hr↓1.5h
6. 生活調査について

7. 生徒座席の件↓固定にする。一年ははなすこと。

8. 出張報告↓東京(校長)。 9. 追加原簿の件

二月十四日(月) 雨

一、バツヂや来校。

1. 耳章25組(50ヶ) 一組 5.-

2. バツヂ 100ヶ (1ヶ 28.-)

3. バツクル 40ヶ (150.-)

右、あづかる↓生徒に渡す(□□)

二、育英会より□□□□の採用通知来る。昭23高号、
5093 1800.-
24年2月より。

三、分散コンパ来週土曜に延期の旨□□申してくる。

二月十五日(火) 雨、曇、雪

一、二年石田奨学生出願書類整備し呈出す。

一年末成績は再試験結果を50〜57にして平均60として提出する。

二、□□□□に奨学生通知書を渡す。

三、分散コンパ期日来週土曜、費用1年50、2年100.-決定を言ってくる。

二月十六日（水）くもり雪

一年の通学生活調査出来。

二月十七日（木）くもり、雪

一、育英会借用証書2枚集る。

二、教官会議

1. ピンボン室の掃除について。

2. 大学入試調査について

成績は教務にて、性格は主任が原案を作り、生徒課長これを調べ学校長が決定し、難しいものは教官会議で決める。

3. 入学志望調査の結果について

a. 医科志望多く80%以上のこと↓知事に伝えておく

b. 二年に大学（旧制）の紹介を折を見て行ふこと。

4. 本校の将来について懇談。

5. 図書予算について↓もうない。

6. 明年度の学課編成について↓考慮のこと。

7. 生活調査について。

8. □□病欠の件↓欠席にして受験させて採点する。受験不能のときは追試にて採点する。さうしないと
学年成績となるから。 51.2が

9. 公務員の改正↓教育公務員法について説明。

三、第一回職員生徒懇談会 (3.30 ↓ 4.40)

種々の事柄について雑談をする。今后は話題を二、三に決める方がよいと思ふ。

四、洋服打合せに井上先生女師へ出張。

二月十八日(金) くもり+雪

一、耳章、バッヂ、バックル代集計 1年バッヂ 37 バックル 10 耳5

二、育英会より□□□□の返戻金受領書到着。

二月二十一日(月) 曇、雪

一、能代の大火(昨20日早曉)にて二年□□、□□の宅焼失判明。

二、バッヂ屋来校して代金を払ふ(受取あり)

二月二十二日(火) くもり、晴

一、中食時教官会ギ

能代大火の為罹災生徒へ義援金募集の件

20円見当にしては如何の校長案決定。校長より委員に話あり。

第六限、学連の能代援ゴについて自治会あり↓額を決めずに任意にて金曜迄。

二、生徒に通知事項

1. 西洋紙一人200枚づつ(30円)配給の件(校長より話あり)事ムと打ち合はせ居
2. 育英会奨学生希望者は割合に通る様になつたから、二年は学年末に、一年は新制大学入学后、願書を提出すること。二年は前学校の成績もしらべておくこと。

三、奨学生決定通知あり

□□□□	昭23高第	5169号、	242月より	(増額は大学后希望とのこと)
□□□□		500.-		
□□□□	〃	5170	〃	(上の通り)
		1800.-		

- 四、委員長に土曜の分散コンパにつき酒をあまり多量用いぬ様、学校長から話あり、伝へる。大して量のない予定とのこと。

五、育英会へ願書20通、借用証書5通請求。

二月二十三日(水)はれ

- 一、ノート配給通知、校長より。

- 二、銀行より入金通知あり。 3500.-
- 三、借用証書提出方公文書作製。

二月二十四日(木)くもり、晴

一、教官会議

1. 物品購入は校長、事務官を通して行ふこと。

2. 消火器の説明を一、二年に教へること。
3. ピンポン室の掃除の励行を生徒に言ふこと。
4. 二年生教室の落書について
5. 学内政治運動については学校の自主性に反しない様にならねばならぬ。
6. 能代大火について。
7. 父兄会としての態度は評議員に手紙を出して意見を求め、50.円見当の寄附を父兄によびかけることにする。
8. 分散コンパの件↓一年の境の戸を外さないこと。
9. 寝台配給の件↓短いのでやめる。
10. 試験及び終業式の件

3月17日(木) 迄授業

18日休日 19(土)、20(日)、21(月)、22(火)、23(水)、24(木)

(金) 試験 休 試 験

終業式は28日に行ふ。二年補講の四日間は次の学期に入れる。

第一学期は四月十五日頃よりとする。

9. 明年度学課目の件

学課規定	倫理	人文	数	物	化	生	一外	二外	体	図	計
時間数	1	2	4	4	3	0	3	5	2	0	24
選択単位	0	0	1	1	1	2	0	0	0	1	36

本校予定 1 1 6 6 6 4 5 5 1 2 地学 1 34

(-2) (但1学年のみ) (△)

(-2)

力学 2 図 2 生 4 センタク

化の1は2学期から。地学は人文へ、人文は大体心理を行ふ。

10. 数学科より↓黒板をふやしてほしい。

11. 化学科 ヲ↓教卓を大きい机を使ってよいか↓よい

二、委員長に一年教室使用について話す。

三、中食休み、生徒の義えん金カンパあり。

四、□□□□の原簿送達、2—3月分学資金到着。

五、西洋紙配給。

二月二十五日(金) 雨

奨学関係の記録整理す↓今後はそのノートに記入することにする。

生徒、明日の準備に大童である。

二月二十六日(土) くもり

十一時ヨリ三時半迄分散コンパあり。講師も出席さる。

三月一日(火)

1. 東京等の宿屋の広告来るにより、生徒の掲示板に掲示をする。

2. 秋田市体育係よりチューブ3本の配給券来る。細目不明(三月五日限)

↓バレーボールチューブなり。

三日に□□に渡す。

3. 障子の骨の修理を自治会にてなし障子張りを為す。

三月三日(木)曇

1. 放課后(本日は休講あり五限終了后)宿直室にて職員、生徒の第二回懇談会開催。二時二十分―六時。十五名位、職員4名。議題は学生の教養について。白熱した議論より人生問題、宗教問題、思想問題に迄発展したるも、あまりにおそい為閉会とする。

2. 教官会議なし(学校長欠の為)

3. 昨日、委員□□不在の為、本日チューブ配給券を交付す。

三月八日(火)くもり

1. 書類整理の件につき校長より話あり。

2. 三伝に電話してノート配給の件をきく。↓尚おくれるが努力する由。

3. チューブ(バレー用)三本保管を生徒より依頼され保管する。

4. 白田先生に依頼之種々のことを日誌によりまとめて校長に提出。

5. 保管帳簿一覧表を校長に提出。

三月九日(水)雨

1. 三伝へノート配給券を持参する。

できるだけ間に合ふ様にするも、いつ着荷するか不明の由。

速急を依頼してかへる。

2. 十字や来校につき石油とアルコール交換の話をする。

三月十日(木) 雨

1. 生徒に(成績不良) 注意す。

2. 第三回懇談会↓盛会でなかつた。(失敗の回顧について)

三月十一日(金) 曇、雨

1. 生徒に注意。

2. 北高校に行き、明年度よりの実験室借用の交渉をする。

併し確答を得ないまゝ、かへり校長に話をし、教育長を通して交渉することにする。

3. □□□□氏より□□欠の理由及び追試験願到着。

三月十五日(火) くもり

1. 笹木薬店へ行き、器具等の入手状況をきく。

2. 学校長に明年度実験用実費 (T.T.10本) ロン■リトマス紙1箱) 100.- 徴集の許可をうる。

昭和二十四年三月十六日(野口)

三月十六日(水) くもり

1. 学校長に新学期の薬品器具(生徒実験用)の許可をえて笹木薬局へ行き、注文する。生徒より徴集の分は学期末に持参する事を話す。

2. 実験器具等を入れる箱20ヶ製作の見積りも許可をうる。

右控（購入票）は事務にある。

3. 一年の問題をプリントし金庫に保管する。

三月十七日（木）はれ、くもり

1. 教官会議

1. □□□□病欠の件↓長欠とみとめ試験を欠にしてもよいか、追試の出願もしてあるから。尚本人の意向もきいてみる。

2. 修業式の件

・簡略に行ふことを旨とする。

・三月二十八日（月）十時より。

・教官、講師は出席し、来賓は知事、リンダルのみとし、知事が代理の時は代理者を不用としてなるべく知事にきてもらふ。

・一年の父兄は招ぶ。

・会場は、階下教室、階上教室を控室とする。24日に完了とする。

・来賓の接待はりんごと菓子にする。

・式終了後、新制大入試について父兄と懇談をする。

・26日に修了者を発表する。

・式順序概略

証書授与（総代↓席次一番のもの）、校長訓辞、知事告辞、リンダール祝辞、在校生送辞、修了生答辞、送辞、答辞については夫々二年、一年に任して決めさせることにする。

これは各主任から伝へておくこと。

・修業証書は奉書紙に学校長が記入する。

3. 24日に一、二年生に左のことを伝へる。

・式場について、・登校時間について、

・修了者氏名発表について

・ノート配給について

四月十八日より二十五日迄代金持参の上、受取に登校のこと。

こない時は処分して二年生に売る。

4. 来学期は四月十八日（月）から行ふ。直ちに講義が始る。

5. 明日は代休であるが事務は普通通りである。

2. 本日にて授業終了す。

3. 二年生に100.徴集の話をする。24日迄。

三月十八日（金）

二十日（日）と入れかへにて休校。

三月十九日（土）風雪

一、学年末試験第一日 1年 英(岸)^(9:30-11) 化^(11:30-1) 2年 微、英(岸)

二、学校長と修業式の打ち合はせを為す。

三、土曜日にて掃除割当なき為か、各教室共汚いので黑板に共同にて為すこと、及び明日の分は十八日(金)の者がやる様に書く。

三月二十日(日) はれ

一、学年末試験第二日 物、生 一生、解

二、十八日といれかへ。

三月二十一日(月) はれ

春分の日で休日。

三月二十二日(火) くもり、雪

学年末試験第三日 独、図 一代、独

三月二十三日(水) 雪后晴

1. 学年末試験第四日 微 一化

2. 明日注意事項あるから集合する様に(階下教室、試験后) 掲示。

三月二十四日(木) くもり

一、学年末試験 代(積) 一物

二、終了後、階下教室にて生徒に注意事項伝達。

1. ノート配給の件

2. 修業式の件↓訓育日誌参照

三、北高校に行き、時間割の件打ち合はせ。

化学は土曜になる予定。学校長に報告す。

四、修業式会場準備↓式場階下、控室階上。

三月二十五日(金)くもり、小雪

□□□□の追試ある為出勤す。

明年度の生徒課日誌等のプリントをして用意する。

三月二十七日(日)はれ

一、成績整理後会議あり。

一年	□□	平均 57 欠点英 (岸)	47	物 48 化 28	} 再試験を行いその上で及第を決定する。 再試験は学年試験の意味とする。
	□□	59 ” 解析	48	三代 47 化	
	□□	” 微分	49	” 47 化 33	(解→微、三、代へ、物独→化)
	□□	” ”	47	解 43 ” 43	(物→微、代独→解、物体→化)
	□□	” 解析	47		(三角より)
	□□	” ”	43	物 47	(独→解析へ、化学→物へ)
	□□	” 化学	49		(物→化)
	□□ (□)	” ”	42		(物、三、代→化へ)

欠点があるが外からまはして及とするか

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	”	解析	48	化	36	(代→解、微、代→化)
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	欠点	化	47			(物より)
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	”	”	39			(物、微より)
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	”	三	47			(解より)

即ち平均点はあるが、欠点のある者は、他の科目から点数をまはして欠点をなくする。

() は追試を行ふ。

結局、1年修了者 35名 総代

他のものは修業証書の配付がおおくれる。

直ちに発表となる。

二年 平均点 不足者なし

欠点	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	代	48	(解より)
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	化	48	(物より)
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	() 化	49	(物より)
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	() 微	48	(解より) 化 46 (独 78 より)
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	() ”	46	(独より) 化 41
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	物	47	(微より) 化 41
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	追試験を行ふ		

再試追試の出願期間 4月18日

試験 》 4月27日(水)

化学の範囲 □□…理論、無機ともに2学期 4.27—限

□□…理論(電離の章) 無機(3学期)

発表は1年のみ(1時頃)

通知表を渡す。

二、第二回教官会議

1. 修業式打ち合わせ

各係…式場生徒係…小野田、井上

接待、受付係…宮田、菊池

進行係…高橋

司会…宮田

証書係…井上

茶菓etc…児玉

接待係は茶とりんごにて、高橋(女)給仕、二年女子生徒

全部で約30人とみりんご3十匁購入した。

ナイフは学校長が持参して、器具等一切は他から借りないで自給自足を行ふ。

講師控室は二階で式場での席は来賓席へ。

式次第(この間学校長と相談した通りである)。

生徒課としての主な注意は次の通りである。

- ・ 来賓を迎へるには起立して静粛に迎へること。
 - ・ 来賓祝辞には起立してこちらから礼をする。
 - ・ 生徒一同が起立するのは在校生送辞及び修了生答辞。
- 父兄懇談は希望あれば行ふこと。

2. 教官室の移転について

明24年度より教官室は二階とする。

現在の教官室は理化準備室及び器具置場とする。

この移動は明日式終了後行ふ↓不能ならば何れ日を決めて行ふ。

3. 北条、外山二講師退職についての記念品の件

木内にある550.-の番茶器ではどうかの校長案。

4. 階上黑板、教壇移動の件↓教務課

5. 時間割の件、土曜四限、水曜七限

6. 座席の件↓明年度より階下教室の席順を決定し単独（二つよせない）とする。

7. 物理実験室として控室使用の件

何れ考慮することとして散会。

三、学校長より薬品戸棚一ヶ、生徒実験器具、積み上げ戸棚一ヶの見積り設計を依頼される。

四、会議終了後、階下会場の整備を為す。

三月二十七日（月）晴、夕方雨

一、修業式

出席者 職員全部、講師（外山、宮城、岸本、北条、近藤）父兄7名

来賓 軍政部教育課長リンダール

知事は上京中の為、出席されず従って知事告辞なし。

開始…十時十分 終了…十一時十分頃

父兄との懇談…終了後十二時近く迄、大学選択、入試等について質疑応答あり。

二、教官会食

学校長の招待にて教官一同校長室にて会食す。

三、教官室移転、明年度教室整備

二年生主体となり階下教室の整備、教官室の階上への移転を行ふ。

二時頃終了する。

四、笹木薬局へ器具薬品代の一部として三千三百円を持参す。

〔笹木薬局の3月28日付および4月19日付の領収書が貼付〕

三月二十八日（火）晴

一、三伝へ行きノートの入手状況について交渉。

近く着荷の予定といふ。代金は四月末迄の約束をする（女事務員に）

- 二、 棚の設計見積りを事務に呈出。
- 三、 帰省届を学校長に呈出。